

道東チャレンジキャンプ

■ 事業のねらい

冒険活動における成功体験や達成体験をとおして、自分と向き合い、自分の持つ潜在的な力を引き出すとともに、集団生活を通じて「よりよい人間関係」について体験的に学び、協調性や社会性を身に付ける。



- 実施日 平成 24 年 6 月 30 日（土）～7 月 5 日（木） 5 泊 6 日
- 参加対象 心に悩みを持つ小学 4 年生～高校生 20 名
- 参加実績 参加者：10 名
 中 2 = 4 名、中 3 = 6 名
 男子 = 8 名、女子 = 2 名
 運営協力者：5 名
 引率教諭 = 2 名、ボランティア = 2 名、釧路市教委 = 1 名
- 備考 協力：釧路市教育委員会、斜里町教育委員会、羅臼町教育委員会、標津町教育委員会、別海町教育委員会、浜中町教育委員会、厚岸町教育委員会
 活動場所：釧路市、斜里町、羅臼町、標津町、浜中町、厚岸町

1 事業実施の背景

全道の公立小・中学校の不登校児童生徒数は、平成 21 年度 4,184 人、平成 22 年度 4,121 人となっており、63 人減少しているものの、在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合は、0.99%から 1.00%と増加している。

また、不登校児童生徒に対する「指導の結果登校する又はできるようになった割合は、平成 21 年度 29.9%であったのに対し、平成 22 年度は 32.9%となっており、「本人が意欲をもって活動できる場を用意すること」も、効果のあることが明らかになっている。本事業は、このような現状と昨年度までの成果と課題を受け、実施するものである。

2 プログラムデザイン

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	宿泊地		
6/30 (土)	8:30 釧路駅 集合		JR 移動 釧路駅→知床斜里駅 (131.8km) 09:05-11:19(134分)		昼食		MTB 移動 知床斜里駅→ウトロ (38.5km)		入浴		夕食		自由交流					知床自然教育研修所		
7/1 (日)	朝食		MTB 移動 ウトロ→羅臼町 (40.1 km)		知床峠で昼食		入浴		夕食		祭り		自由交流					旧飛仁帯小学校校長住宅		
7/2 (月)	朝食		MTB 移動 羅臼町→標津町 (49.9 km)		途中昼食		入浴		夕食				自由交流					標津町ポー川史跡自然公園		
7/3 (火)	朝食		MTB 移動 標津町→浜中町 (78.9 km)		別海で昼食				入浴		夕食		自由交流					農業者トレーニングセンター		
7/4 (水)	朝食		MTB 移動 浜中町→別寒辺牛川上流 (18.8 km)		カヌー移動 別寒辺牛川上流→水鳥観察館 (約 7 km)		昼食		MTB 移動 水鳥観察館→ネイバル (10.8 km)		夕食		撤収 作業		入浴 自由交流					厚岸少年自然の家
7/5 (木)	朝食		MTB 移動 ネイバル厚岸→青空学級 (51.5 km)		途中昼食		ファイナル パーティー		17:30 城山小学校解散											

総移動距離 427.3km (JR 131.8km MTB 288.5km カヌー 7km)

■ アクティビティについて



■ 意図

- 長距離の自転車移動という活動を通じ、精神的にも身体的にも自分自身と葛藤するような困難な場面に直面させ、その困難を克服する体験をさせる。
- 成功体験やそれに伴う達成感を味わうことにより、仲間との共感的理解と自尊心の回復(向上)を図る。
- 活動をふりかえりながら、自己の変容に気付かせ、望ましい人間関係を構築する能力などの潜在的な「力」を引き出し、さらなる挑戦に向けての意欲付けを図る。

■ 留意事項

- 参加者全員が成功体験と達成感を味わうために、キャンプ期間中、一人ひとりの様子に目を配り、よりきめ細かな個に応じた活動支援を心がける。

3 活動の様子



■ 活動の様子

1 日目は、釧路駅前出発式を行い、JR で知床斜里駅へ移動。そこから自転車に乗り換え、およそ 40km 先の斜里町ウトロを目指した。参加者にとっては初めての自転車による長距離移動であったが、好天に恵まれ、無事全員が完走した。

2 日目は、ウトロから羅臼町までおよそ 40km の知床峠越え。自転車で 15km にわたる急な上り坂を登るという困難を全員が乗り越えた。知床峠で昼食をとり、羅臼岳をバックに記念撮影。そこからは下り坂が続くため、急カーブに注意を払いながら、この日の宿泊場所である羅臼町の飛仁帯地区に到着した。

3 日目は、羅臼町から標津町までの、ゆるやかな上り下りのあるおよそ 50km。霧雨の中を駆け抜け、ポー川史跡自然公園に到着した。

4 日目は、この事業の最長区間である標津町から浜中町までのおよそ 80km を走破した。比較的平坦なコースであるが、長距離であるため、途中、くじけそうになる生徒もいたが、参加した仲間励まされ、日が沈み暗い中、浜中町茶内の農業者トレーニングセンターに到着した。

5 日目は、別寒辺牛川をカヌーで下るプログラムが盛り込まれた。最初の 20km を自転車で移動し、その後、カヌーに乗り換えて 7km を下り、最後は再び自転車でネイパル厚岸までの 10km を移動した。

最終日の 6 日目は、厚岸から釧路への最後の 50km。一人ひとり、それぞれの思いを胸に、ゴール地点である城山小学校を目指した。7 月 5 日午後 4 時頃、全員無事ゴールし、青空学級の教室でファイナルパーティーを行った。子どもたちは、楽しかった 6 日間をふりかえり、感動の中、すべてのプログラムを終えた。

■ 参加者の声

- この宿泊研修の 5 泊 6 日は、他のどこでもできない体験だと思います。4 日目には熱が出てしまい、休んでしまいましたが、それ以外はちゃんと自転車で走れたので、自分的には良い結果だったと思います。このキャンプに出て本当に良かったです。(中 3)
- 今までで一番大変な出来事でした。すごくつかれたけど、すごく楽しかったです。すごく大変だったけど、また行きたいと思いました。みんなとゴールできてよかったです。(中 3)

4 事業評価



■ 参加者の変容【I K R 調査結果】

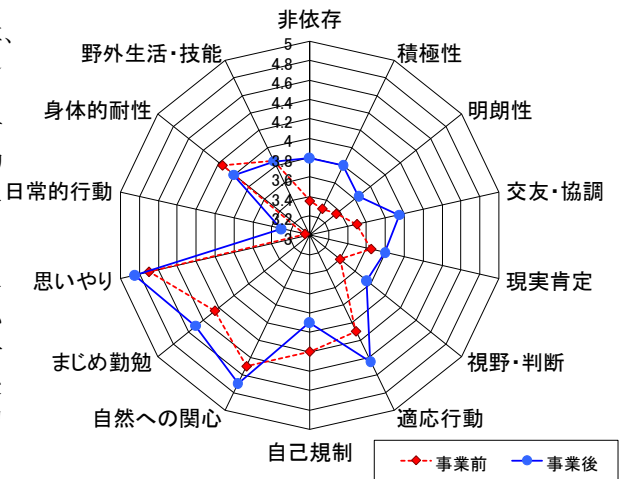
全体としては、5.9 ポイント向上していた。

最も大きな変容を示したのは、「積極性」の 0.5 ポイント、続いて「非依存」「交友・協調」の 0.45 ポイントであった。「視野・判断」「適応行動」は 0.35 ポイントの向上が見られた。

■ 結果の分析・考察

「積極性」の向上については、自転車による長距離移動を通じて、困難な活動を克服し、やり遂げたことより、自分からすすんで何でもやる力や前向きに物事を考えられる力を身に付けたことによるものと推察する。

「非依存」と「交友・強調」の向上については、集団宿泊を通じ、前者は、いやなことはいやとはっきり言える力が身に付いたことによるものであり、後者は、誰とでなかよくできる力が身に付いたことによるものと推察する。



5 まとめ



■ 成果

- 釧路市教育委員会社会教育主事に走行中の安全管理やストレッチの指導を担当していただくなど、関係機関の協力により、質の高い充実したプログラムとすることができた。
- I K R 調査結果から、「積極性」「非依存」「交友・強調」を含む「心理社会的な能力」は、5.1 ポイント向上しており、その向上に有意差が見られたことから、事業のねらいに近づくことができたと言える。

■ 課題・今後の方向性

- 事業後の子どもたちの変容について追跡調査をしたり、ふりかえりのための事業を実施するなど、継続的に取り組んでいく必要がある。
- 事業の成果について、広く道東の地域に普及するなど、参加者の拡大を検討する必要がある。